



感染症の流行が予測できない時代です。県内で
麻疹が発生しています。近年流行が見られなかっ
たため、再度ご確認をお願いいたします。



「麻疹」とは…

「麻疹」は、感染力の強い感染症です。体育館をしめきった状態で、感染している人が1人いた場合、免疫を持っていない人は、90%の確率で発症すると言われています。

| | |
|--------|--|
| 感染経路 | 空気感染(空気中のウイルスをすいこむ)、飛沫感染(しぶきをあびる) |
| 症状 | <p>カタル期:眼球結膜の充血、眼脂(目やに)、発熱、咳、鼻水の呼吸器症状、口内の頬粘膜にコブリック斑(白い斑点)</p> <p>発しん期:一旦熱が下がり、再び高熱がでて赤い発しんが生じる →耳の後ろから顔面にかけて出始め、全身に広がる →発しんが消えた後、褐色の色素沈着がある</p> <p>回復期:発しん出現後、7~9日で解熱する</p> |
| 合併症 | 肺炎、中耳炎、喉頭炎(クループ:のどの奥がはれ、特徴的な咳や呼吸困難がみられる) 脳炎 |
| まれな合併症 | 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)といわれる致命的な脳炎 ※罹患から数年後に発症 |
| 診断 | 血液、咽頭ぬぐい液、尿からのウイルス遺伝子の検出法(PCR法) |
| 治療 | 有効な治療薬なし→対症療法 |
| 出席停止期間 | 解熱した後3日を経過するまで |



予防接種について

「麻疹を確実に予防するためには、1歳以上で**2回**の予防接種が必要である」(予防接種法H29.6)

第1期：1歳

第2期：5歳以上7歳未満(小学校入学期間)

2回の摂取がお済みでない場合は、接種を検討されてみてください。母子手帳で、摂取歴が確認できます。

感染の可能性がある時

★登校前に検温する→37.5度以上の場合は、感染の可能性があるため受診する

※受診の際は、受診する医療機関に事前に連絡する。(身近に麻疹に感染している人がいるか等を伝える)

★患者と接触した後72時間以内の場合→麻疹含有ワクチン(麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン))の緊急接種を行うことで予防できる可能性がある

★患者との接触後6日以内の場合

→ガンマグロブリン(血液製剤)の注射により発症を予防できる可能性がある

※筋肉注射、投与量が多い、痛みが強い

→予防はできるが確実ではないため、やむを得ない場合にのみ使用する